



別府地域（別府市・杵築市・日出町）

2022年第19週（5月9日～5月15日）

○感染性胃腸炎の発生報告数が増加しました。

感染性胃腸炎は、ロタウイルスやノロウイルスなどのウイルスや細菌によって引き起こされる胃腸の疾患で、一年を通じて発症しています。ウイルスによるものは毎年秋から冬にかけて流行が認められます。症状は原因となるウイルス等によって少しずつ異なりますが、発熱、下痢（水様便、血便など）、腹痛、悪心、嘔吐などです。多くの場合、患者との接触や、汚染された水、食品によって経口的に感染します。手洗い、うがいを励行し、日常的に清潔を保つことが重要です。排便後や調理前は石けんと流水での手洗いが大切です。タオルの共用を避けることも必要です。十分な睡眠と栄養を取るようして体調を良好に保つようにしましょう。

○ヘルパンギーナの発生報告がありました。

ヘルパンギーナは、発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性発疹を特徴とする、夏季に流行がみられる急性ウイルス性咽頭炎で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。感染経路としては、ウイルスが手などを介して口に入ることによるもの（経口感染）と、せきやくしゃみによるもの（飛沫感染）があります。潜伏期は2～4日、突然発熱し、咽頭粘膜が赤くなり、口腔内に小水疱が出現します。小水疱はやがて破れて浅い潰瘍となり、痛みを伴いますので、栄養不足や脱水に注意が必要です。有効な治療薬などはありませんので、感染者との密接な接触を避け、うがいや手洗いの励行などを行い、予防に努めることが重要です。

○手足口病の発生報告がありました。

手足口病は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス感染症で、幼児を中心に夏季に流行が見られます。感染は、排出されたウイルスが手を介して口に入ることによるもの（経口感染）、せきやくしゃみによるもの（飛沫感染）や接触感染で起こり、潜伏期は3～4日程度です。

有効な抗ウイルス剤などはありませんので、手洗いの励行などの予防が重要です。口の中の症状が強く出たときには、水分不足にならないように注意が必要です。特に、乳幼児のいる家庭は十分注意して下さい。

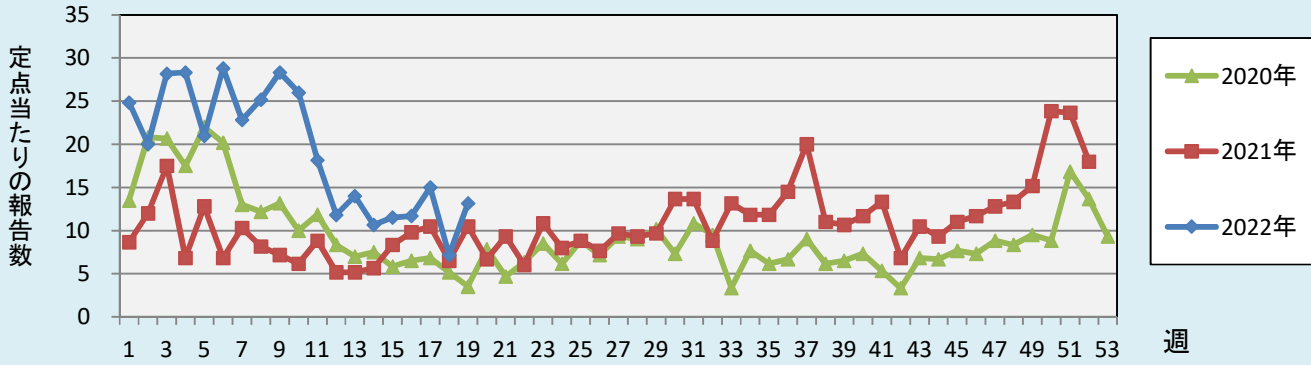
	1 インフルエンザ			2 RSウイルス感染症	3 咽頭結膜熱 (プール熱)	4 A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	5 感染性胃腸炎	6 水痘 (水ぼうそう)	7 手足口病	8 伝染性紅斑 (リンゴ病)	9 突発性発しん	10 ヘルパンギーナ	11 流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	12 マイコプラズマ肺炎
	A型	B型	不明											
0歳							0.83							
1～3歳							6.83	0.17	0.33		0.50	0.33		
4～6歳							2.33						0.17	
7～9歳							1.00						0.17	
10～14歳							1.50							
15～19歳							0.33							
20歳以上							0.33							
今週							13.17	0.17	0.33		0.50	0.33	0.33	
70歳以上 (再掲)														
前週						0.17	7.17	0.50			0.17			

麻しん (全数報告)	風しん (全数報告)
累計0	累計0

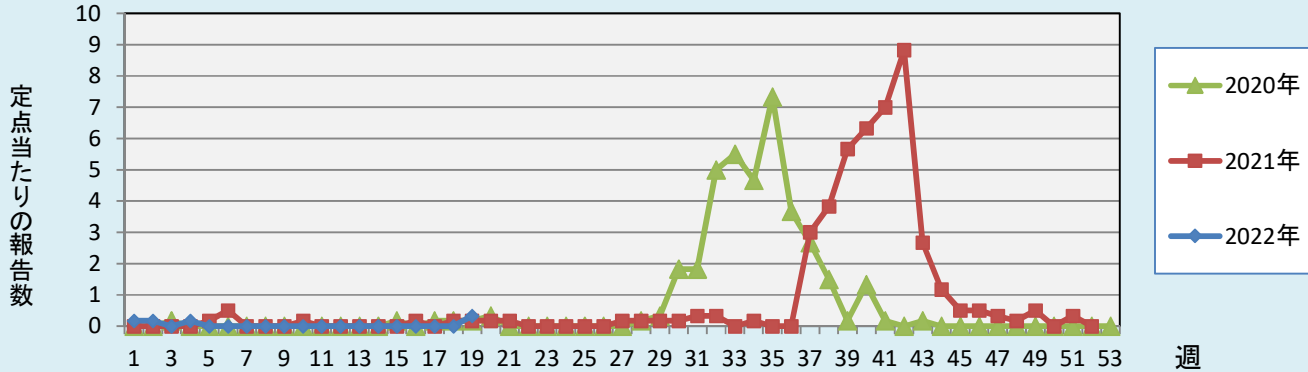
※指定された医療機関(定点)から報告された患者数を、1定点あたりに換算して計上

全医療機関から報告された患者数

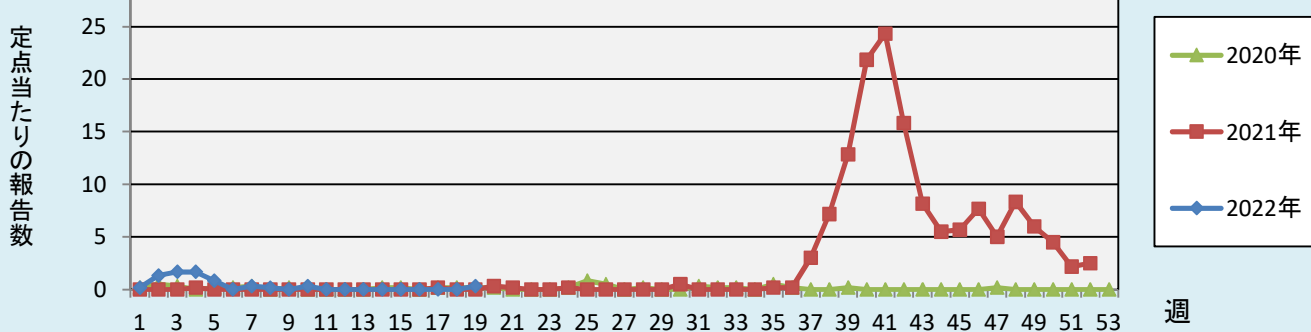
別府・杵築・日出地区における感染性胃腸炎患者数の推移（過去3年間）



別府・杵築・日出地区におけるヘルパンギーナ患者数の推移（過去3年間）



別府・杵築・日出地区における手足口病患者数の推移（過去3年間）



疾病	警報レベル		注意報レベル 基準値
	開始基準値	終息基準値	
インフルエンザ	30.0	10.0	10.0
咽頭結膜熱	3.0	1.0	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	—
感染性胃腸炎	20.0	12.0	—
水痘	2.0	1.0	1.0
手足口病	5.0	2.0	—
伝染性紅斑	2.0	1.0	—
ヘルパンギーナ	6.0	2.0	—
流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3.0
急性出血性結膜炎	1.0	0.1	—
流行性角結膜炎	8.0	4.0	—

- ・「警報レベル」: 大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを指します。
- ・「注意報レベル」: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

